平和人権フィールドスタディ
南アジアとフェアトレード
～フェアな社会を創るための一歩を学ぶ～

この授業の受け入れ先

特定非営利活動法人

シャプラニール
＝市民による海外協力の会

ミッション

私たちは、南北問題に象徴される現代社会のさまざまな問題、とりわけ南アジアの貧しい人々の生活上の問題解決に向けた活動を現地と日本国内で行い、すべての人びとがもつ豊かな可能性が開花する社会の実現を目指しています。

- 創立：1972年
- 活動地域：南アジア（バングラデシュ、ネパール）
- 職員数：日本人17名（現地駐在員2名含む）、
  バングラデシュ人13名、ネパール人5名
- 継続的な支援者数: 約3,000人
  ・2019年度の総収入: 2億3,300万円
  □51%: 会費、寄付金（※緊急救援寄付含む）
  □20%: フェアトレード販売、国内活動収入等
  □29%: 政府補助金、民間助成金等

＜主な活動分野＞

- 児童労働のない社会をつくる
- 災害に強い地域づくり
- 女性の生活・収入向上（フェアトレード）

市民に支えられて活動する団体

皆さんが買い物をする時一番気になるのは何ですか？値段？産地？それとも・・・？
何気なく手にとっている商品がどこから来たか、どんな人が作っているのかを考えることは、
世界を変える一歩です。作る人も、買う人も幸せになれるフェアトレードについて考えませんか。

- 最貧国ネパールやバングラデシュの生産者の暮らしや仕事
- 貧困から逃れるための“出稼ぎ”（あなたの身近で彼らが働いていること）
- 生産物がフェアトレードとして扱われるようになったことで起きた家庭の変化、地域の変化

学べること

まちづくりへの広がり：フェアトレードタウン

- 多様なセクターが連携協働することでフェアトレードの輪を広げる新しいコミュニティづくり

① まちのブランド価値の向上
② 若者の社会参加
③ 地産地消・まちづくりの進展
④ 消費者教育（エシカル教育）との親和性
⑤ SDGs（持続可能な開発目標）達成へ

生産者 → 集荷業者 → 材料加工労働者 → 商品工場労働者 → 輸出業者 → 輸入業者 → 小売業者 → あなた消費者

フェアトレードむさしの　FAIR TRADE FORUM JAPAN

＜活動の流れ＞

6/13（日）　1,2限　顔合わせ会 事前学習Ⅰ（平和・人権とは？）
6/23,30（水）　4限　オンライン事前学習Ⅱ（知り合う　フェアトレードについて）
7/7,14（水）　4限　オンライン事前学習Ⅲ（目標設定　南アジアについて）
↓
9/6（月）　　2,3,4限　対面　実習準備
↓
9/13（月）～18（土）　国内実習（変更になる可能性があります）
1日目 シャプラニール＝市民による海外協力の会（以下シャプラ）東京事務所でオリエンテーション＆ボランティア活動
2日目 南アジアの生産者＆生産団体について学ぶ（シャプラ）、国際協力NGO訪問
3日目 フェアトレード運動について学ぶ（シャプラ）、フェアトレード団体訪問
4日目 フェアトレードむさしの活動視察、Fむさしのと協同する成蹊大学訪問
5日目 早稲田大学フェアトレード学生団体等訪問　リフレクション（シャプラ）
6日目 フェアトレードタウン逗子視察
↓
9/29,10/6（水）4限　オンライン　事後学習　Ⅰ　活動準備
↓
10 or 11月　　行動：学祭・Asia Week等での発信など
↓
10/27,11/10（水）4限　オンライン　事後学習　Ⅱ　報告会準備
↓
11/14日 3,4限 対面 報告会

COVID-19により、東京での実習が難しくなった場合は、浜松or 熊本での活動もしくはネットを活用した活動に変更となり場合があります。

履修登録の方法

選考科目（WEBにて志望理由などを書いて登録申請を行った後、担当教員等による選考を経て受講者を確定する科目）

【履修登録期間】　4/9（金）　AM10：00～4/19（月）AM11：00まで

【受講許可者発表】　4/23（金）　PM1：00

平和人権フィールドスタディの募集要項
https://secure.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=485318

申し込み
https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA40D0.html?key=LNG202104011049314882943 48

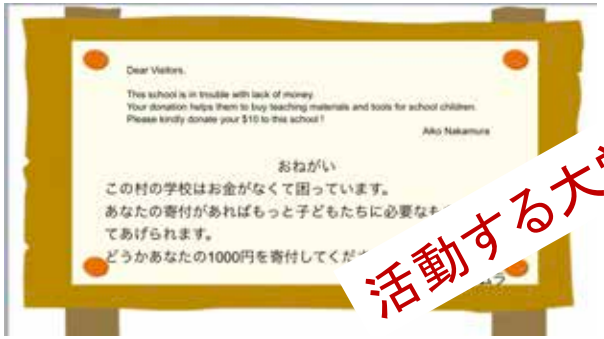
Campus Webから申し込めます！ご不明な点は、担当の秋吉　akiyo-m@fc.ritsumei.ac.jpまでどうぞ

2020年度の様子

新型コロナウィルス感染症の影響で、
オンラインを活用した活動となりました。

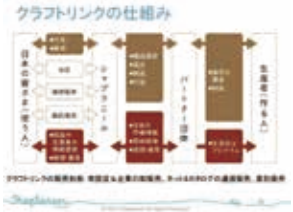
2021年度は国内実習（東京＆神奈川）を予定しています。

8月26日①ワークショップ一枚の看板
シャプラニール・ユース・チーム



活動する大学生と知り合う

8月27日②③シャプラ概要・クラフトリンク概要を知る
シャプラニール東京事務所スタッフ講義



8月27日～9月15日
フェアトレードの背景にあるもの、出稼ぎ在日ネパール人調査

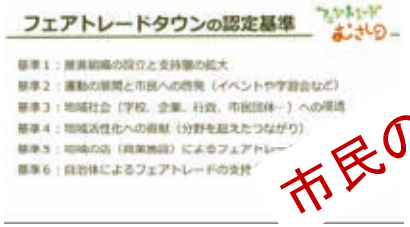
足元の問題とつなげる

NHKBSプレミアム「ジャパニ」

9月15日⑤現地へオンライン質問会　ネパール現地スタッフ

現地を知る

9月16日⑥日本でのフェアトレードの動向を知る
シャプラニール代表＆フェアトレードジャパン理事講義



9月17日⑦関西のフェアトレードショップ調査
SISAM工房（京都）訪問

市民の活動を知る

9月18日,19日

⑧フェアトレードについて若者が興味を持つような発信方法を考える
・クラフト商品POP作成、PR動画作成、インスタグラムでの発信など

若者にフェアトレードを伝えるワークショップをしたい！

クラフトリンク/シャプラニール

参加者限定で
特典あり！

あなたの「買い物」があの子を幸せに
～私たちができる身近な国際協力～

日時：11/21（土）・12月20日(日)Asia Week
場所：オンライン(参加申し込み者には別途ZoomのURLを送ります)
参加費：無料
参加方法：事前申し込み制(12月17日締め切り)

参加申し込みは
こちらから！

今、日本国内には多くの出稼ぎ労働者がいます。彼らはなぜ家族と離れ離れになってまで、日本に出稼ぎに来ているのでしょうか？出稼ぎの背景を知るとともに、この状況を変えるために私たちができることを考えてみませんか。

立命館大学　シチズンシップスタディーズⅠ　ネパール未来プロジェクト

学びを踏まえた行動（キャンパス近郊&全国に向けた発信）

ワークショップを実施するメンバーたち

Zoomの画面

グループワーク中

オンライン・ワークショップ

感想(リフレクションレポートより)

今回この1年間のネパール未来プロジェクトを通して「自分はどのような人間なのか」「将来何がしたいのか」を考えるようになった。
今まで大学の授業を受けていて、なかなか志が同じような人と出会う機会はなかったため大人の人の中に混ざって話を聞いてもらったりしていた。しかし今回は同世代と同じ「若者にフェアトレードを広める」という目標をもち1年間意見交換する中で、私は何より時間を大切にしたいという意思強く持っ自分の中で迷うよりは積極的に発言し、行動することが自分の納得できる自己の表現で、“とにかく人に喜んでもらいたい”それが私のがんばれる原動力なのだと改めて知ることができた。ているのだと認識した。そしてこれからもなりたい大人になれるように成長していきたいと思う （1回生）

この出会いの中で、私が一番印象に残っているのがシャプラニールユースチームの方々によるワークショップである。これは、私たちのワークショップを開催するにあたってのきっかけともなった。このワークショップには様々な魅力が詰まっていた。簡単に分けると、ストーリー性、ディスカッションの質の2つに分けることができる。まずは、ストーリー性から述べていく。このワークショップのストーリー性は不思議とその世界に溶け込んでいるかのように作られておりとても感動した。次に、ディスカッションの質について。このワークショップでは主に1枚の看板として「1000円の寄付による価値」について深く考えさられたテーマであった。これらのワークショップを体験し、私たちの活動目標としてワークショップを完成させることを目標にし、達成することができた。
また、ワークショップを完成させる上で主体性も必然的に必要となり少しは成長出来たのではないかと感じている。1から作るワークショップに戸惑い、混乱はあったがその中でも協調性を失わずして、自分が請け負っているパートを完成させる主体性が大きく必要になったワークショップ作成であったと感じている。
このプロジェクトを終えて、チームの大切さは勿論、目標に向かって全員で前進していくことに感動を覚えた1年であった。（２回生）

感想(リフレクションレポートより)

授業内での出来事で、今でも印象に残っていることがある。それは、自分にとってのボランティアとは何か。という問いについてメンバー間で意見を共有した際のことである。私は、ボランティアに関する経験は少ないものの、ボランティアについて自分なりの考えを頭の中では持っているつもりであった。しかし、私はそこで自分のボランティアに対する考え方を上手く言語化することができなかった。それゆえに言いたいことをメンバーに理解してもらうことができなかった。口に出すという行為を通して初めて、自分なりのボランティアを確立できていないことに気づいたのである。頭の中ではいくらでも難しく考えることができるが、他者に理解してもらえるよう口に出し、言語化しなければ何も始まらない。このことを痛感した瞬間であった。
フェアトレードもまた、自分の頭の中だけで重要性を実感しているだけでは、意味をなさないように思う。自分だけの行動では、フェアトレードが多くの人を救うことができるようにはならないからこそ、多くの人の協力が必要である。私は、活動を通して当初は自己完結に終わっていた自分のフェアトレードに対する思いを発信する立場となった。(3回生)

私は、近所にあるネパール料理店の店主にもこの授業の活動で出会った。彼は、日本のことを特に公衆衛生などの観点からたいそう気に入ってくださっていた。私は日本に出稼ぎに来る人は、やはり日本に好意的であるのかと思った。一方で「出会った」とは違うが、この授業においてドキュメンタリーの視聴を通じて存在を知った人たちがいる。そのドキュメンタリーは、日本に出稼ぎをしに来ている両親と、ネパールに残された子どもたちの現状を取材した番組であった。ここでは取り上げられていた少女は日本に対してあからさまにヘイトを向けていた。私はネパールから日本に出稼ぎに来る人がいるということは知っていた。しかし、彼らの娘、息子がネパールに残されていて、彼らが日本に対して嫌悪感を持っているということにまで考えが及んではいなかった。出稼ぎの親が子どもを連れてくるとは限らないし、残された子どもが日本に親を取られたという感情になるのは、いたって自然なことである。このことから、私は出稼ぎについて、自国に残される家族についても焦点を当てることで、出稼ぎの問題に新たな側面があるということを学んだ。ちなみに、先ほどの店主も、自国に家族はいるし心配はするとおっしゃっていた。物事を一面的に、見える部分でしか考えていなかった自分に気づき、光のあったっていない面の存在に気づいていけるような人間になりたいと思った。(1回生)